

公益社団法人日本トライアスロン連合 (JTU)

2021 年度 (令和 3 年度) 第 4 回定時理事会 議事録

[1] 開催 : 2021 年 12 月 8 日 (水) 13:00~17:32

- ・方式 : 実会議方式とインターネット・ウェブ会議の併用
- ・運営会場 : Japan Sport Olympic Square 3F 会議室 (新宿区霞ヶ丘町)

[2] 出席 (理事 28 名、監事 2 名) :

岩城光英、仲井公哉、大塚眞一郎、中山正夫、山倉紀子、鈴木貴里代、岸田吉史、山根英紀、齋藤れい、森幸、石井なおみ、大関辰郎、園川峰紀、須山浩光、村上幸生、村瀬訓生 (14:05 出席)、関根明子 (15:38 出席)。

以上、理事 17 名会議室出席。

飯島健二郎、和田知子、上田藍、菊池日出子、豊岡正康、島津寿江、宮本悦子、大野徹雄、宮城直久、富川理充 (15:30 退席)、原澤敦美 (17:00 退席)。

以上、理事 11 名オンライン出席。

荻原政吉 (会議室出席)、秋山智昭 (オンライン出席)。以上、監事 2 名。

・オブザーバー (3 名)

平松弘道 (マルチスポーツ対策チームリーダー)、近藤邦宏 (ハイパフォーマンスチームアシスタントディレクター)、土屋佳司 (パラハイパフォーマンスチームマネージャー)、

・事務局出席 (8 名) 坂田洋治、児玉健太、長江千明、小池賢、萩原舞、大岩葵、内藤裕也、島村直子

[3] 議事の経過

JTU 定款第 6 章 (理事会) 第 34 条 (決議) により、ウェブ会議進行役の児玉事務局次長が、利益相反による一時離席などについて説明の後、理事出席を一人ずつ確認し、定足数を満たしていることを報告した。会議の冒頭に弔事対応を行った後、定款 33 条 (議長) により、岩城会長が議長として開催宣言を兼ねた挨拶を行い、同第 23 条 (理事の職務及び権限) による会長及び業務執行理事の職務執行状況が報告された。その後、定款第 35 条 (議事録) により、岩城会長、荻原監事、秋山監事を議事録署名人、大塚専務理事、宮本理事を議事録確認の署名人とし、議事録作成者に事務方を指名し、議案の審議に入った。

[4] 決議事項

第1号議案) 前回理事会議事録承認

2021年度第3回定時理事会の議事録案について、メール回覧済であるとの児玉事務局次長の報告があり、質疑などないことが確認された後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

- ・承認事項) 2021年度第3回定時理事会(2021年9月8日開催)議事録案

第2号議案) 諸規程・組織関連

標題について、児玉事務局次長より説明があり、質疑応答の後、議長が個々に賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

- ・承認事項1) 倫理コンプライアンス規程の変更案

承認事項骨子) 倫理コンプライアンス規程について、以前の理事会で基本承認を受けていた変更案の調整事項があり同一内容の再承認を受けた。なお、第13条(倫理委員会の対処)第3項に、懲罰制度における処分内容の通知に関わる事項を追加した。

- ・承認事項2) 専門委員会規程の変更案

承認事項骨子) 専門委員会規程第6条に事業の運営を円滑に行うことを目的にオンラインで実施する際の手続きに関する追記及び理事会の承認により委員以外の理事、専門委員長、有識者らが該当委員会の委員と同資格で出席できることを追記。強化体制の変更に伴い、オリンピック対策チーム及びパラリンピック対策チームの名称をトライアスロン・ハイパフォーマンスチーム、パラトライアスロン・ハイパフォーマンスチームに変更。専門委員会会議の開催について、理事会に準じた内容に変更した。全体として日本スポーツ協会の同規程を参考にして全体を編集した。

- ・承認事項3) トータルサポート委員長に相田博幸氏(千葉県)を選任

第3号議案) 倫理委員会関連

標題について、大塚専務理事並びに岸田常務理事より説明があり、質疑応答の後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

- ・承認事項) JIU 会員の不正資格譲渡事象に関する処分内容

承認事項骨子) 石垣島トライアスロンにおいて発生したJIU競技規則第20条違反事象の当該会員2名をJIU倫理コンプライアンス規程に準じ、該当大会開催日の2021年4月11日から2022年度大会開催日(4月17日)までJIU会員資格停止処分とする。

備考) 倫理コンプライアンス関連の5つの案件について、概況が報告され、今後の推移に応じて詳細報告の予定であることが追記された。

第4号議案) パラトライアスロンハイパフォーマンスチーム 関連

標題について、富川理事(パラハイパフォーマンスチームディレクター)から説明があり、質疑応答の後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

・承認事項1) 2022年JTUパラトライアスロン強化指定選手制度(案)

説明骨子) 2021年からの変更・修正点として、①東京2020大会を対象大会に追加、②WTPCHsのS指定を順位率のみに変更、③[8]派遣規定を追記、④フィットネスチェック、メディカルチェック、記録会への参加義務、⑤コンチネンタルパラカップ(仮称)等の可能性を追記。

・承認事項2) 2022年JTUパラトライアスロン強化指定選手(案)

女子パラトライアスロン強化指定選手<B指定選手2名>

- ・秦由加子(千葉県/キヤノンマーケティングジャパン・マーズフラッグ・ブリヂストン) PTS2
- ・谷真海(東京都/サントリー) PTS4

男子パラトライアスロン強化指定選手

<S指定選手2名>

- ・宇田秀生(滋賀県/NTT東日本・NTT西日本) PTS4
- ・米岡聡(東京都/三井住友海上) PTVI1

<B指定選手2名>

- ・木村潤平(東京都/社会福祉法人ひまわり福祉会) PTWC1
- ・佐藤圭一(愛知県/セールスフォース・ドットコム) PTS5

<C指定選手2名>

- ・梶鉄輝(兵庫県/JPF) PTS5
- ・山田陽介(奈良県/ジール) PTVI3

・承認事項3) 2022年JTUパラトライアスロン育成強化指定選手制度(案)

・承認事項4) 2022年JTUパラトライアスロン育成強化指定選手(案)

*認定期間:承認日~2022年12月末日

女子:該当無し

男子:山田陽介(奈良県) PTVI3

・承認事項5) JTU認定記録会におけるパラトライアスロン選手の参加条件及び目安記録の変更(案)

説明骨子) ①普及に力を入れるため対象年齢を12歳以上に引き下げ、②目安記録を2020シーズン、2021シーズンのリザルトをもとに変更

・承認事項6) 世界パラトライアスロン選手権(2022)、World Para Triathlon Series及びWorld Triathlon Para Cups選手選考基準(案)

説明骨子) 強化指定選手からの出場希望がなかった場合、それまでの出場レース

数、成績等を総合的に判断して Substitution を積極的に活用し、選考する。

- ・承認事項 7) アジアパラトライアスロン選手権 (2022) 選手選考基準 (案)
- ・承認事項 8) パラリンピック対策チーム活動へのオリンピック強化指定選手協力体制 (案)

説明骨子) エリートの World Triathlon ランキング 141 位以下の選手を対象として、トライアスロン・ハイパフォーマンスチームとパラトライアスロン・ハイパフォーマンスチームで事前打ち合わせのうえ、当該候補選手所属チームのコーチやリージョナルリーダーへ依頼し進める。

第 5 号議案) トライアスロンハイパフォーマンスチーム 関連

標題について、山根理事 (ハイパフォーマンスチームディレクター) 及び児玉事務局次長から説明があり、質疑などないことが確認された後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

- ・承認事項 1) 第 19 回アジア競技大会 (2022/杭州) 選考基準案

説明骨子) 選考基準 (優先順) ①ワールドトライアスロン・チャンピオンシップシリーズ (2022/横浜) 1-16 位 (順位順)、②ワールドトライアスロンランキング (2022 年 5 月 16 日時点) 1-60 位 (順位順) とし、①②で出場枠 3 名が満たされなかった場合、①の順位順に選考する。

- ・承認事項 2) HPT 組織体制・主要関連基準

2-1) ハイパフォーマンスチーム組織図・JOC 専任スタッフに生田目颯氏を追加

2-2) ナショナルチーム・プログラム変更案

説明骨子) パリ五輪直近 1 年間 (2023 年 7 月から 2024 年 6 月まで) の評価対象ランキングについて、ワールドトライアスロンランキング (WTR) ではなく、オリンピッククオリフィケーションランキング (OQR) にすることで、NOC 出場枠獲得に向けて連動させる。また、評価対象・期間については、WTR: 2021 年第 4 期~2023 年第 2 期、OQR: 2023 年第 3 期~2024 年第 2 期とする。

2-3) ワールドトライアスロン公式大会・ユニフォーム基準 (2022-2024 年) 案

2-4) NTT トライアスロン・ジャパンランキング (2022 年) 案

説明骨子) ワールドトライアスロンランキング・クライテリアの変更に合わせて、カットオフタイムが男女とも 8% に統一される見通し。ジャパンランキング上位の強化費を従来の 5 位までから 1 位~3 位選手への支給に変更。

2-5) 認定記録会・標準記録 (16 歳以上男子タイム・認定級) 変更案

説明骨子) Alex Yee 選手 (イギリス) のパーソナルベストが更新されたことにより、男子ラン 1 級のタイムを 7 分 45 秒 81 に変更する。

2-6) JTU タレント・選抜育成プログラム案

説明骨子) 認定タイム・評価期間を 2022 年 1 月より 1 年間に変更し、四半期ごとに認定・発表する。

2-7) 2022 年ワールドトライアスロン/アジアトライアスロン・デュアスロン選手権 選考基準案

説明骨子) 各カテゴリー共カーフマン・シリーズ 19 最終戦の 1 位を第 2 優先とする。

2-8) ワールドトライアスロン公式大会以外の国際イベント出場推薦方針案

説明骨子) 個々の大会の有用性を考慮しながら、オリンピックへとつながる強化方針に沿っていると判断される場合には、出場機会を検討する。

第 6 号議案) マルチスポーツ対策チーム関連

標題について平松マルチスポーツ対策チームリーダーから説明があり、質疑応答の後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

・承認事項 1) ロングディスタンス強化事業改革案 (2022)

説明骨子) アイアンマンプロライセンス資格発行への評価大会の完走パーセンテージを緩和する。ただし、世界で戦える最低限の競技レベルを保てる範囲での緩和とする。これにより、アイアンマンプロカテゴリーへの積極的なチャレンジを支援する。さらに、トライアスロンエリート選手のアイアンマン 70.3 への出場を促進する。また、従来の強化指定制度を改め、海外基準で作成されたプロライセンス発行基準をクリアした選手をプロ/エリートとして最上位に位置づけ、プロ/エリート選手から世界選手権を目指すエイジグループ選手を対象とした“オールジャパン”としての強化に取り組む。

・承認事項 2) 2022 年 アイアンマンプロ登録証明書発行基準(案)

説明骨子) コロナの影響による特別措置として 2019 年を対象大会に含め、2 年間を有効期限として対象大会を定める。スタンダードディスタンスからの参加促進を図るため、過去の WTR140 位以内の実績のある選手をハイパフォーマンスチーム推薦選手とする。

・承認事項 3) 2022 ワールドトライアスロンロングディスタンストライアスロン選手権 エリート日本代表選考基準(案)

説明骨子) 2020 年の代表に選考された選手を第一優先に、佐渡大会と五島大会のエリート 1～3 位を選ぶ。今年の選考については記録会による出場基準を撤廃し、試合の順位で選考する。

第 7 号議案) マーケティング・事業

標題について坂田マーケティング事業局長から説明があり、質疑応答の後、議長が賛否

を求めたところ、異議なく承認可決した。

・承認事項 1) 日本選手権の考え方

説明骨子) 2022 年のエリート・U23 の日本選手権は 10 月 9 日に東京台場にて、U19 は 7 月 17 日に長良川にて、高校生選手権は 7 月 24 日に那須塩原で開催予定。U15 及び中学校選手権については開催協議中。ウルトラロングディスタンス (6 月 26 日) 及びロングディスタンス (9 月 4 日) の日本選手権は、「ナショナルチャンピオンシップ」に名称変更。第 3 回日本エイジグループ・トライアスロン・ナショナルチャンピオンシップを 10 月 30 日宮崎で開催予定。

補足事項) 東京台場の公道を使用する選手権は年 1 回に限るという指導を湾岸警察署から受け手いるため、日本デュアスロン選手権については総合的に判断して決める。

・承認事項 2) 国内主要大会カレンダー

補足説明) ウィンタートライアスロンに関しては冬季五輪札幌大会開催に向けて普及に取り組んでいく。来年 3 月末～4 月上旬に長野または新潟での開催を検討中。

・承認事項 3) 2022 エイジグループ・スタンダード・ナショナルチャンピオンシップシリーズ (エイジアスリート向け年間ランキングシステム) について

説明骨子) 2022 年世界/アジア選手権の参加資格は同じシーズン中の 6 月末に決定し、2023 年世界/アジア選手権への派遣は 2022 年 7 月～2023 年 6 月末の成績で決める。国別制限枠が撤廃されたことにより年代毎の定員は設定しない。ナショナルチャンピオンシップシリーズは各大会事務局及び加盟団体宛に参画意向を確認した後、決定する。

補足説明) ワールドマスターズゲームズは 2026 年へ延期予定のため 2023～2025 年の成績により出場資格を付与。

第 8 号議案) 審判・技術委員会関係

標題について、利益相反関係にある石井理事の一時退席の後、川添理事 (審判委員長) から説明があり、質疑などないことが確認された後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

・承認事項 1) 日本デュアスロン選手権 (2021/東京台場) 技術代表: 石井なおみ (千葉)、審判長: 小田智子 (東京)

・承認事項 2) 第 27 回日本トライアスロン選手権 (2021/宮崎) 兼 第 11 回日本 U23 トライアスロン選手権 (2021/宮崎) 技術代表: 伊藤一博 (千葉)、審判長: 鹿嶋晋 (宮崎)

第 23 回日本 U19 トライアスロン選手権 (2021/宮崎) 技術代表: 伊藤一博 (千葉)、審判長: 内藤義之 (福岡)

第9号議案) 国民スポーツ大会関連

標題について関根理事(国体委員長)から説明があり、質疑などないことが確認された後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

- ・承認事項1) 2022年栃木国体トップアスリートの予選会免除の適用申請(案)
- ・承認事項2) トップアスリートの国民体育大会参加資格の特例措置の適用内容(案)
説明骨子) 第77回国民体育大会では「予選会免除対象大会」の申請は行わない。「中央競技団体が定めた強化指定選手」を特例の対象選手とし、JTUトライアスロン・ハイパフォーマンスチーム ナショナルチーム・プログラムとリンクさせ、2022年4月1日に対象選手を定める。特例対象選手は、①2022年第2期JTUトライアスロン・ハイパフォーマンスチーム ナショナルチーム A・B選手、②ワールドトライアスロンランキング(2022年3月28日現在)1-60位の選手とする。

第10号議案) 推薦・表彰関連

標記について、利益相反関係にある富川理事が一時退席した後、児玉事務局次長から説明があり、質疑応答の後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

- ・承認事項1) JOCスポーツ指導者海外研修事業の推薦
派遣希望があった忽那静香(山梨)、吉越慎吾(千葉)の2名についてハイパフォーマンスチームでヒアリングを実施、研修中の具体的な活動計画等を確認した上でJOCに推薦する。
- ・承認事項2) 2021年度日本スポーツ賞 他表彰推薦候補案
日本スポーツ賞候補にニナー賢治選手、日本パラスポーツ賞大賞に宇田秀生選手を候補として推薦する。
- ・承認事項3) 2021年度ミズノスポーツメントール賞候補者の推薦
富川理充 JTUパラトライアスロン ハイパフォーマンスチームディレクターを候補として推薦する。

第11号議案) JTU中長期計画策定における提案

標題について児玉事務局次長から説明があり、質疑応答の後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

- ・承認事項) アビームコンサルティング社(AC社)へのJTU中長期計画(2024-2028-2032)策定の委託
- ・説明骨子) マーケティングそしてガバナンスコードの観点から、外部の人材・視点を加味した中長期戦略の策定が必要である。AC社は、スポーツ庁関連事業に関わる知見があり、これまでのヒアリング実績、他コンサル会社との比較における優位点が

評価できる。これについて、他企業との見積条件の平等性についても平等との説明があり、当計画の展望期間や有効性について、加盟団体にもわかりやすく、絵に描いた餅でない計画とする確認があったことが述べられた。

第 12 号議案) 理事定数の増員案

標題について、大塚専務理事より説明があり、質疑応答の後、議長が賛否を求めたところ、異議なく承認可決した。

・承認事項) 理事定数の 5 名増員の方針案 (2022 年度社員総会での審議案)

説明骨子) JTU は、オリンピックとパラリンピックの正式競技トライアスロンを統括する唯一の団体である。パラ部門をさらに普及発展させるために、地域の状況やジェンダーバランスを視野に入れ、理事定数の 5 名増員の方針案について研究を行う。なお、別途、監事 (会計担当) の増員提案についても検討する。

審議進行に関わる確認)

議長に代わり児玉事務局次長が、審議に関わるインターネット接続等において聞き取れなかったことや発言できなかつたことなどが無いかを確認した。格別な発言がなく、インターネットによる議事進行は滞りなく行われたことを確認し報告した。

[5] 報告事項

1) 登録会員・予算執行状況 (大塚専務理事)

2021 年 9 月末現在、事業収益、受取り補助金の達成率はほぼ予定通りで推移。大会事業費は 403%の収入増。経常収益は 60.9%の執行状況だが、2019 年度の 22 億円から 2020 年度は 25%ダウン、2021 年度はさらにダウンする見通し。

特筆すべきは旅費交通費 4200 万の年間予算に対して既に 7000 万を支出。委託費 9 億は横浜大会、廿日市大会の開催で 59.9%履行。

会費関係は、2019 年度から 2020 年度は 25%ダウン、2021 年度はさらに 25%ダウンという厳しい状況だが、2022 年度は石垣、横浜、五島長崎大会の参加登録で動きが出て 25%回復できる可能性もある。

2) セミナー・フォーラム委員会報告 (岸田常務理事)

11 月 28 日に開催したコーチングシンポジウム・パラトライアスロンミーティングは、参加者からのアンケートではおおむね好評だった。

トライアスロン・パラトライアスロン Technical Official セミナーは 1 月 8 日開催決定。

トライアスロン・パラトライアスロン研究会の日程は 2 月 13 日または 27 日で調整

中。JTUフォーラムはできるだけ早期に日程を調整する。

3) コナミスポーツ（坂田マーケティング事業局長）

既報の通り、コナミスポーツとの契約は2022年3月をもって満了となる。会員への特典開発のために、JTUパートナー・サポーターとの新たな特典の創出に務めている。一例として、ワイズロードの会員特典を開始した。

4) アスリート委員会選挙報告（児玉事務局次長）

JOCのアスリート委員会選挙で再選を目指した上田藍理事の当選はならなかったが、これまでの功績に感謝したい。ワールドトライアスロンのアスリート委員にニナー賢治選手が立候補し、上から2番目の得票で当選した。

5) 女子委員会（石井理事）

女性役員がどれだけ配置されているか等、加盟団体の活動状況を評価するためのアンケートを実施したいと考えているのでご協力をお願いしたい。

6) 事業企画委員会（鈴木常務理事）

ブロック等からの推薦を受けながら事業企画委員会メンバーを一新する予定。各委員会と連携しながら進めたいのでご協力をお願いしたい。

7) 高校生普及委員会（園川理事）

来年7月24日に高校生選手権が栃木国体のプレ大会で開催することが承認された。2023年以降も国体プレ大会で高校生選手権を開催できるよう各ブロックにご協力をお願いしたい。

8) ブロック報告

・ 関東ブロック（園川理事）

各大会が2022年の開催に向けて動きだしている。中でも富士山トライアスロンは2年越しの開催となり、T0の確保が不足ぎみである。千葉シティ大会の詳細報告に関わり、選手の安全管理や救護などについて意見が提出された。また、審判資格のない大会スタッフやボランティアの救護についても活動範囲の定義づけが必要であることなどの意見があった。これらに対し、村上理事からは、自身がライフセイバー資格を取得し大会に関わっていることが報告された。

・ 近畿ブロック（岸田常務理事）

近畿ブロックでは、2019年以降の登録会員数が厳しい状況にある。しかし、団体

登録では、落ち込みが少ない傾向にある。団体登録制度を推進するとともに、グループでトライアスロンを楽しめる提案ができるとうい。

・ 中国ブロック（大野理事）

先日の大会開催者会議で審判員の高齢化、協力体制の不統一があるとの意見があった。今年の夏以降、近畿ブロックの協力により開催したオンライン講習会の次のステップとして、中国ブロックの中で同様の企画を定着させる準備をしている。来年4月9日の中国ブロック定時総会にJTU役員の派遣依頼をする予定。

・ 沖縄ブロック（宮城理事）

大会安全管理について、ライフセイバーに基準に沿って審判資格をあたえている。関連して、川添理事からは、午前中に審判資格講習会、午後にライフセイバー資格講習会を実施したケースが紹介された。

9) 新ロゴの提案

JTUのコミュニケーションネームとしての「トライアスロンジャパン」制定に伴う新ロゴ案が提示された。ワールドトライアスロンのロゴに準ずるもので、新規マーケティング開発に活用できるとの説明が坂田マーケティング事業局長からあった。今後、継続的に検討する。

[6] 次回定時理事会：2022年3月23日（水）第5回定時理事会開催予定

[7] 閉会宣言

仲井筆頭副会長の挨拶の後、本日の理事会すべてが終了したことが告げられ、17時32分に閉会した。

議事録署名と確認：

(岩城光英・議長・会長・代表理事)	(印)	2021年	月	日
(荻原政吉・監事)	(印)	2021年	月	日
(秋山智昭・監事)	(印)	2021年	月	日
(大塚眞一郎・専務理事)	(印)	2021年	月	日
(宮本悦子・理事)	(印)	2021年	月	日